

澁谷審議官による記者ブリーフィングの概要

日時：平成26年10月22日（水）19：45～20：00

場所：内閣府記者会見室

【冒頭説明】

シドニー閣僚会合に先立って行われている準備の状況説明の2回目である。21日は最初に原産地規則について現状報告を受けた後、法的・制度的事項について議論した。法的・制度的事項の中で閣僚に上げる案件がいくつかあるが、政治的な課題として、紛争処理手続がある。紛争処理手続は、様々なチャプターで難航していたものを横断的に処理することになっているので、元々難しい問題をまとめてやっているわけで、非常に難しく、閣僚で議論する必要ありとなっている。続いて、国有企業の議論を行った。作業部会から進捗について報告を受けた後、閣僚への上げ方を議論した。具体的な閣僚への上げ方は明日引き続き議論することとなった。

22日は、物品だけでなくサービスも含む広い意味での市場アクセス関係のテキストについてハノイの続きを午前中に行い、その後、知的財産の議論を行った。知的財産自体、課題がかなり残っており、首席交渉官にすら上げられないテクニカルなものも含めると結構な数になる。閣僚に上げる必要のある課題について、これまで作業部会で一定の整理しており、数え方は国によって若干まちまちだが、10数個ある。この中のどれをどのように閣僚に上げるのかを議論した。

明日は、環境、投資・サービスの議論を行い、国有企業の続きを行う。これで難航3分野は明日までに全て議論することになる。ただ、始まって以降、毎回宿題が出ているので、最終日24日は、これまで宿題になっていたものを整理した上で、午後、シドニーに移動することになると思う。

物品市場アクセスのチームは、物品テキストの作業部会などもあり、バイ協議の時間がなかなか取れなかったようだが、20日から今日まで5カ国とバイの協議をした。ただ、2、3回と重ねて協議をしている国もある。

【質疑応答】

（記者）

物品市場アクセスのバイ協議を5カ国と行ったというが、これは延べ5カ国か。

（澁谷審議官）

違う。重複は除いている。

（記者）

日米の大江・カトラー協議は行ったのか。

（澁谷審議官）

大江代理は、昨日の夕方から、ヴェッター首席農業交渉官と協議を始めている。昨日の夕方は、今後の進め方について話をした。大江代理は、本日も他国との協議を行っているので、その合間にヴェッター首席農業交渉官と協議を行った。明日も

行う予定だが、カトラ一次席通商代表代行が24日からシドニーで協議できるということなので、恐らく、大江代理は明日シドニーに移動し、24日にカトラ一次席通商代表代行と協議するだろう。

(記者)

大江・ヴェッター協議は、これまでの大江・カトラ協議と同じことをしているのか。

(澁谷審議官)

基本的にはそう。

(記者)

物品市場アクセスはバイ協議を進めていると言うが、各国の結果を全体で確認するという事はまだ始まっていないのか。

(澁谷審議官)

いつかはやらないといけないと認識していると思うが、まだやってない。

(記者)

知的財産は論点が10数個というが、閣僚会合に向けてそこから絞り込まれたか。

(澁谷審議官)

国有企業もそうだが、閣僚にどのように上げるのかについて、今日時点で具体的に決まったわけではない。知的財産についても、今日の首席の議論も踏まえて分科会で具体的な上げ方の整理をするということ。

(記者)

10数個の論点すべてを閣僚に上げるのか。

(澁谷審議官)

それぞれの課題について思い入れのある国がそれぞれあるで、絞り込むのは簡単ではない。ただ、知的財産以外にも課題はあるので、さすがに閣僚にどのように上げるのかをきちんと整理しないといけないという思いはあるが、今日時点で具体的な上げ方は決まっていない。

(記者)

10数個の論点は、全て異なるテーマか。

(澁谷審議官)

1つ1つの課題を独立して数えれば10数個ということで、例えば、著作権の関連でもいくつかあるので、大きく括れば数個といえなくはない。ただ、10数個それぞれが議論のある論点なので、大きく括ったからといって絞り込んだことにはならない。

(記者)

閣僚へは、大きなテーマを丸ごと上げるイメージか。

(澁谷審議官)

首席レベルで方向性を出せれば閣僚に上げずに済むというのが理想である。

(記者)

論点が10数個の状態だと、今回の閣僚会合でまとめ切るのは難しいのでは。

(澁谷審議官)

そもそも、昨年12月と今年2月は、はるかに論点が多い状態で閣僚会合で議論した。ただ、3日間の閣僚会合を効率的に行うには、論点は絞り込まれた方がいい。これは、まさに5月の閣僚会合での閣僚の指示である。

(記者)

シドニーで関税交渉は閣僚間でも行うのか。

(澁谷審議官)

市場アクセスは、物品だけでなく、サービスや政府調達も含めてバイで協議しているので、閣僚レベルのバイでも議論することになろう。

(記者)

閣僚は、バイの協議が中心か。

(澁谷審議官)

正式な予定が固まっていないが、初日はバイ中心のようだ。

(記者)

事務レベルでバイを行った国とは、閣僚レベルでも行うのか。

(澁谷審議官)

まだアポは調整はじめてばかりであるが、過去、甘利大臣は、大臣が来ている国とは、バイ協議をするようにしている。なるべく多くの国と大臣は協議をしたいということだと思う。

(以上)